

視点

農工分野の産学連携で、地域から イノベーションを産み出そう



国立大学法人
東京農工大学 学長

ちば かずひろ
千葉 一裕 氏

プロフィール

東京農工大学学長、内閣府が推進するムー
ンショット研究開発プロジェクト(目標5:
農林水産業)のプログラムディレクター、
農林水産省 中小企業イノベーション促
進プログラム統括プロジェクトマネー
ジャー、ムーンショットR&D プロジェ
クト(日本、米国、オーストラリア、イン
ドの4カ国協力 AHENGAGE:Advancing
Innovations for Empowering NextGen
AGriculture) テクニカル・リードを兼任

新たな国立大学の姿

東京農工大学は今年で150周年を迎える工業・
農業分野に特化した国立大学です。

2020年に学長に就任してから、「地球をまわ
す世界第一線の研究大学へ」をビジョンとして掲
げ、人の未来価値を広げる教育改革、研究連携に
基づく新機軸の創成、社会に向けた知識の提供と
実践、教職協働による経営基盤の強化を進めてき
ました。

その中でも私たちは、社会や時代の要請をしっ
かりと捉えた上で、明らかにしたい事象や社会の
あるべき姿を描いて、そこに向かっていくために
不可欠な学術領域を切り開く信念が一番重要であ
ると思っています。

本学では日本の困っている地域に積極的に手を
差し伸べ、具体的事業をどう展開していくか対話
すると同時に、日本の食料やエネルギー事情を考
え、どういう国とどう付き合っていくか、どうい
うサイエンスを取組のベースにおくべきかという
ことも考えながら他国との交渉も進めていくかも
考え、様々な事業を推進しています。

“はんしん”さんとの飯能における産学連携 に向けて

飯能信用金庫 “はんしん”さんとは、今年の3

月に連携・協力に関する包括協定を締結しました。今回の包括協定を通じて、地域が抱える様々な課題の解決とともに、地域事業者の皆様と一緒に、既存事業の発展や新規事業開発等に挑戦し、さらには国外市場も目指していきたいと考えています。

本学は、東京多摩地域に位置しますが、「武蔵国」では、飯能市および周辺地域も同じ「地域」です。他の大学も含めて、埼玉・東京・神奈川および周辺地域を一体とした地域の産学官連携を推進していきます。

首都圏の我々が日々口にしている食料や使用しているエネルギーのほとんどは地域外から持ち込まれたものです。また遊休農地が年々増加し生産者の高齢化も進み、畜産業・林業も維持していくのが難しい状況です。一方で、飯能や多摩は大都市近郊にあり、広大な森林や農地をまだ残っています。本学が旗振り役となって専門性を発揮しながら食料安全保障と農林業の経営力を強化する大都市近郊型農林業を推進し、持続的に発展可能な社会に向けた事業投資型アグロフォレストリーシステム構築を構想しています。

これ以外にも、「人の暮らしの価値を高める研究」を理念に、様々な研究やそこから生まれる事業を、地域の皆様と切り拓いていきたいと考えています。

我が国初の認定ファンド設立と活用

本学は、2023年1月に国立大学として初めて民間ベンチャーキャピタル（BPキャピタル株式

会社）との連携による認定ファンド「TUATファンド」を立ち上げました。

単に資金を国からいただくばかりでは今の時代に不十分と考え、社会に有用・有益な研究を提供するために、自ら資金を集めて研究に役立て、成果を還元する仕組みが必要と考え、BPキャピタルさんとともに立ち上げました。自分たちの努力の結果としてお金を増やし、研究力の向上と技術的発展が期待でき、その成果を出資した方々に還元するというサイクルです。

BPキャピタルは、「地方から日本を元気にする」を企業理念として、地域が必要とする資源を供給する取り組み（地方創生ファンド組成・運営、地方創生コンサルティング事業）を進めており、今年初頭での能登半島地震において被災した能登地域を中心に活動されています。今も能登地域における復旧・復興支援のために、単に現状復帰するだけでなく、今までの地域の課題を解決した上での復興をともに目指しています。

ここにさらに“はんしん”さんがもつ地域企業のネットワークや経営支援の経験等を融合させ、地域からイノベーションを一緒に産み出していきたいと考えています。まずは地域の皆様の対話からアイデア出しをできればと思いますので、“はんしん”の方々と伺わせてください。

